

根堀台

第24号



由利中学校 学校便り
平成三十年十一月六日(火)

発行者 校長 佐々木克也

あきた教育の日(11月1日)にちなんで

○キャリア講話実施

講師

○○○○先生

○ゆりの根教室実施

十一月一日をあきた教育の日として制定されています。その趣旨は、県勢発展の原動力は「人」であり「人」は財産である。その「人」づくりは教育が担っていくものである。このため、県民一人ひとりが教育に関心を持ち、また、学校、家庭、地域、企業などが連携・協力しながら子どもたちを育てていくという共通の認識に立つて、教育立県をめざすために力強い教育を推進していく必要がある。子どもたちがやがて、県内外で秋田の発展を支える「人」となることを願い「あきた教育の日」を設ける。

昭和二十三年十一月一日は、わが国で初めて教育委員会が設置された日です。よってこの日を制定日としたそうです。

学校としても行事等の

公開に取り組みやすい時期でもあり、集中的に取り組む期間十月から十一月にかけての期間に各種イベント(みんなの登校日等)の集中開催を行う事になっていきます。

本校では、由利中祭、町内一周駅伝大会、ゆりの根教室(みんなの登校日)をスクールイベントと捉えています。

さらに、今年度は、物理学者で、最近では作家として活躍されている○○○先生をお招きして、キャリア講演会も実施しました。以前にも紹介しましたが、○○先生は、由利中学生国際交流流事業におけるオーストラリアでのエージェンツ(ボランティア)をなさった方です。○○先生は、シドニー校外のゴスフォード市在住で、大学で教鞭を執る傍ら由利町の町議会議員の

視察の際にゴスフォード市の案内をされたのを機に、交流事業のプログラム策定や案内を六年間行っていました。ちなみに東京大学出身でイギリスの大学で修士をおとりなったという事でした。○○先生は、由利を第二のふるさととおっしゃり、来日の際は、わざわざ秋田まで足を運んで下さっています。また、先生は、一九九八年九月には、「環太平洋協会」を設立し、理事長に就任しオーストラリア政府よりCENTENARY MEDALを授与され現在は生涯理事に就任しています。又、自書『穰の一粒』が第三十二回愛媛出版文化賞奨励賞を受賞している方でもあるのです。そんな雲の上の人が我が校に時々おいでいただいている、直接お話を頂く事ができるのは、由利中生だからこそなのです。十月二十五日の四校時のキャリア講演会では、ご自身の学生時代の話を交えながら、生き方について

楽しいお話をされました。その後の昼食もランチルームで三年生の席で一緒にいただいてもいいました。ざっくばらんに生徒との会話も楽しまれました。将来は、アメリカで歌手になりたいという夢を話してくれた生徒に、真剣に夢を叶えるための手立てをお話ししておりました。「素敵な生徒さんばかりですね」というお話にただうなずくばかりでした。短い時間でしたが有意義な一時となりました。



ゆりの根教室十一講座実施

十一月三日(日)は、みんなの登校日でした。午前中は三時間授業を行い、早めの給食後、二年部では修学旅行説明会、三年部では、入試説明会を実施しました。

その後、ゆりの根教室開講式を行い、PTCA総勢二百二十名ほどで十一の講座に分かれて和菓子づくりやヨガなど十一講座に挑戦しました。今年度からは、コミュニティスクールの一環として、学校



ダンス講座より (US A?)

支援コーディネーターの〇〇〇先生に講座や講師の準備をお願いしました。お陰様で充実した時間を過ごす事ができました。

地域の教育力を活用した取組として今後も充実していきたいものです。

【講座と講師の皆さん】

- 〇ヨガ 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇ダンス 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇合気道 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇七宝焼 岩城自然の家 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇篆刻 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇パステルアート 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇和菓子づくり 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇豆腐づくり 〇〇〇〇〇〇先生
- 先生 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇ソフトバレーボール 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇バドミントン 〇〇〇〇〇〇先生
- 〇卓球 〇〇〇〇〇〇先生

全国学力・学習状況調査の分析

平成三十年度の由利本荘市における全国学力・学習状況調査の分析結果が公表されましたので掲載いたします。

本校の分析成果

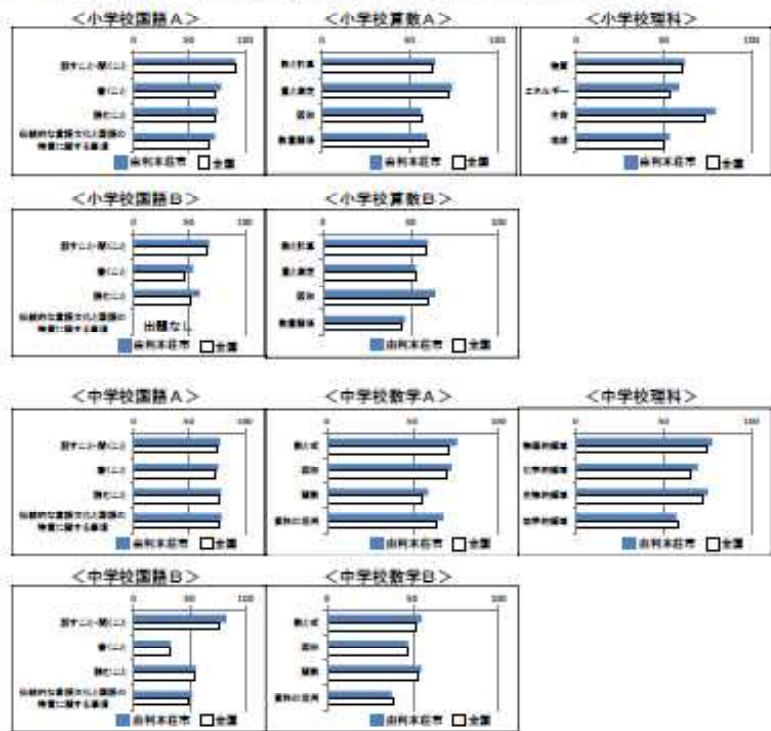
【国語】

〇A問題における平均正

平成30年度 本市の全国学力・学習状況調査結果

- 調査の概要
児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学習指導の改善を図る目的で、平成19年度から実施されています。全国の小学6年生と中学3年生を対象で、今年度は平成30年4月17日(火)に実施されました。
- 調査の内容
国語A、国語B、算数(数学)A、算数(数学)B、理科(A・Bセット)の3教科です。A問題は主に「知識」、B問題は主に「活用」に関する問題です。その他に、学習習慣や生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査と、各校の校長が回答する教育環境等に関する学校質問紙調査も実施されました。
- 秋田県と全国の比較 (県の平均正答率は整数値で発表されています)
(小学6年 平均正答率) (中学3年 平均正答率)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
秋田県	77	61	67	57	66	78	66	70	51	70
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	78.1	61.2	66.1	48.9	68.1



質問紙調査からは、小・中とも、家庭学習に計画的に取り組んでいる様子がうかがえます。また、地域の出来事に関心を持ち、関わってこうとする意識が育ちつつあることがうかがえます。

答率は秋田県平均比では四領域とも下回っているが、全国平均比では全体がほぼ同値である。特に正答率の高いものは「文章の構成【書く】」「段落の役割【読む】」「話合いの方向を捉える【話す・聞く】」「漢字の読み書き【言語】」「接続詞の使用【言語】」「語句の意味と適切な使用【言語】」である。全体的に「読むこと」「伝統的な

言語文化」において正答率の高いものが多い。文学作品・説明的文章において、表現や文章の構成に着目して分析的に読む学習を行ってきたことの成果があったものと思われる。また、週一回の漢字テスト、単元テストと補充学習の実施により、言語事項の定着が図られたものと思われる。

〇B問題における平均正

答率は秋田県平均、全国平均ともに上回っている。「文章とグラフから内容を捉える」「読む」「目的に応じて文章の構成や展開、必要な内容を捉えてまとめる」「読む」「書く」以外は正答率が高い。A問題同様、作品を分析的に読む学習、さらに、自分の考えをもつてまとめる学習、読み取ったことと関わらせたスピーチ学習の効果があったものと思われる。

【課題】

▲A問題で特に正答率が低いものは、「二つの内容を一文で書き加え、相手に分かりやすくする」「書く」「一文を書き加える意図を選択し、伝えたいことが表されているか検討する」「書く」「司会の適切な発言を書き、話合いの方向を捉える」「話す・聞く」「語句の意味と適切な使用(せきをきつたように)」「折り合いをつける」(心を打たれた)【言語】「行書の基礎的な書き方(言語)」である。推敲する

意識の不足、問題を的確に読み取っていないこと、条件に適切に答えていないことによる誤答が多い。日常生活で使用する言葉が単純化している。

▲B問題では「文章とグラフから内容を捉え、要約したり要旨を捉えたりする」「読む」「目的に応じて文章の構成や展開、必要な内容を捉えて、まとめる」「読む」「書く」の正答率が低い。複数の情報を関連づけて、論理的に自分の考えをまとめる学習が十分ではない。また、全体を俯瞰して必要な情報を得ることができていないほか、端的に文章化することが嫌がる傾向にあることが原因と考えられる。

【数学】

A問題の数と式の領域における平均正答率が29%全国を上回った。県は05%下回ったものの、県学習状況調査と比較すると、「数量関係を不等式で表す」が中一時マイナス33%から+38%へ、

「連立方程式の立式」は中一時マイナス55%からマイナスイナス25%と向上した。文字式が表す数量を繰り返し確認する授業展開により、定着を図った成果と考えられる。

○B問題では関数の領域における平均正答率が県を11%、全国を68%上回った。特に「グラフの読み取り」は正答率が9割を超え、「グラフから求める方法を示す」では県を18%、全国を110%上回った。「数学を普段の生活に活用しよう」と考えている生徒が78% (県+22%)おり、1次関数とみなして考えることのおよきを味わえる題材を授業に取り上げたことが成果に結び付いたと考えられる。

【課題】

▲A問題で5%、B問題で4%県を下回った。特に知識・理解の観点の二十二問のうち十一問が県を1%以上下回り、六問は20%以上下回った。他の観点の問題でも、解答類型を

見ると、問いの用語を正しく解釈していないことが理由と考えられる誤答が多く見られた。また、根拠をもとに説明する際に、法則や定理、数値による比較などの示し方が不完全である誤答が多かった。抽象化する数学的思考のよさを味わう機会が不足であったと考える。

(3)理科について

【成果】

○「発熱パック中のアルミニウムと水温変化の関係の指摘」79.8% (県+0.8%)、全国+9.8% (県+0.8%)や「豆電球とLEDの点灯と電力の関係の指摘」93.9% (県+0%)、全国+2.5% (県+0%)に見られるように実験結果を分析して解釈することに成果が見られる。「理科の授業で自分の考えや考察を説明、発表している」生徒が95.6% (県+25%)、全国+22.2% (県+25%)、全国+22.2% (県+25%)のように、考察の場を設定した授業展開が成果につながったと考えられる。

【課題】

▲平均正答率が県を∞

%、全国を41%下回った。特に県を20%以上下回った4問は、思考の基礎となる技能や知識であり、今後学び直す必要がある。

▲「刺激と反応を対応させた実験の計画」39.4% (県マイナス29.4%)、全国マイナス34% (県+1%)や「一つの要因を変えるとその他にも変わる要因の指摘」89.6% (県マイナス9.6%)、全国マイナス0.6% (県+0.6%)など条件を検討して観察・実験を改善していくことに課題がある。観察・実験の結果に基づいて自他の考えを検討し、改善していく場を設定する必要がある。

二 児童生徒質問紙

【成果】

○規範意識に対応する3項目中すべてで肯定的回答が100%であった。各教科において最後まで解答を書こうと努力する姿勢もすべての生徒に身に付いており、授業における問題解決に向けた自主的な取組につながっているも



3年親子入試説明会より

のと考えられる。
 ○「地域の行事に参加」84.8%（県+27.3）、「地域などでボランティア活動に参加」100%（県+39）と地域社会との関わる機会が多く、「地域社会への関心」97.0%（県+22.4）をもち、「地域社会をよくするため何をすべきか考える」69.7%（県+12.2）姿勢につながっている。
 ○教科の学習が「好き」「大切だ」「分かる」など肯定的に捉えている生徒が多い。

【課題】

▲「起床時刻を保つ」90.9%（県マイナス20）、「家で宿題をする」90.9%（県マイナス5.4）などの基本的な生活設計のために自分を律する力が十分といえない生徒がいる。

▲「先生はよいところを認めてくれている」といえない生徒が0%いる。昨年度（100%）よりは減少傾向にあるが、0%を目指したい。

▲ニュースに触れる機会が毎日である生徒が「新聞」

30.0%（県マイナス40）、「テレビやインターネット」54.5%（県マイナス5.4）と、やや少ない。

3 今後の取組

（一）国語、算数・数学において、正答率が県平均を下回る設問の補充・回復指導、回復状況の把握にどう取り組むか。

【国語】

①「書いて伝える」学習の充実を図る。これま

で行ってきている「自分の考えをまとめる」活動

に、推敲する時間を設定することで「書く」の補充を図る。学習のまとめや定期テストで回復状況を確認する。

② 授業の中で辞書を活用して語彙の拡充を図る。語彙が単純・貧弱にならないよう意識させる。

今後学習する「故郷」等の学習において、キーワードとなる語句を入れて文章化するなどして、意識の向上及び回復状況の把握を図る。

③ 説明的な文章において、図・写真と文章との関連に着目して、文章構成を読み取る学習を展開する。また、読み取ったことを要約する学習の中で、図表を取り入れながら書く学習を取り入れる。字数制限の中で書く学習を丁寧に行い、書くことを厭わないようにさせていく。定期テストの中で回復状況を把握する。

【数学】

① 2乗に比例する関数の学習の中で、表・式・グラフを関連付ける活動を設定し、その中で数学用語の学び直しを意図的にしていく。生活体験を取り上げるだけでなく、それを抽象化した数学的世界で考える場も設定する。

② 相似な図形、円、三平方の定理の学習の中で、定着が不十分であった定理も既習事項として揭示して想起させる。ただし、その授業で身に付けるべき知識や技能と混同し、定着を妨げないように十分配慮していく。実力テストも含めて回復状況を見取っていく。

① 数と式の領域に関する問題は、定期テストに繰り返し取り上げ、回復を図る。

ていく。実力テストも含めて出題することで回復状況を把握する。

（二）児童生徒質問紙の結果を受け、今後どう取り組むか。

①「家庭学習力自己評価」などを通じて、自己コントロール力の大切さに気付かせ、生活改善に取り組ませる。三者面談や懇談などで家庭にも働きかけ、協力を得ていく。

② 授業と関連した家庭学習課題を与えるだけでなく、授業展開に生かしたり、学習成果と関連付けたりすることで価値付けし、生徒が家庭学習の必要性を自覚できるようにしていく。また、教師が生徒の行動を見取り、具体的に称揚したり、励ましたりして認める場の一つとすること、より共感的な人間関係を築いていく。

以上分析結果をもとに全力で授業改善に取り組んでおりますが、ご家庭でも同様に協力お願いします。

私費会計中間監査

十一月三日（土）にPTA会長立会のもと会計監査をしていただきました。報告書を掲示します。